

令和 2 年 7 月 15 日現在

機関番号：34410

研究種目：基盤研究(A) (一般)

研究期間：2017～2019

課題番号：17H01007

研究課題名(和文) 東アジアにおける家族の変容と社会の持続可能性に関する総合的研究

研究課題名(英文) Research on Family Changes and Sustainability of Societies in East Asia

研究代表者

岩井 紀子 (Iwai, Noriko)

大阪商業大学・総合経営学部・教授

研究者番号：90223362

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 33,600,000円

研究成果の概要(和文)：本研究では、東アジア社会調査(EASS)2016 家族モジュールを含む日本版総合的社会調査JGSS-2018を実施して、国際統合データ(有効回答数は日本2660、韓国1015、中国4132、台湾2024)を作成した。2006年に実施したEASS 2006からの家族の変容をとらえた。親への経済支援は、支援なしが日本は7割で変わらず、台湾は5割近くまで増え、韓国と中国では頻繁な支援が3割前後に増えた。2000年から継続して実施しているJGSSの累積データと組み合わせて時系列分析を行い、再生可能エネルギーの利用、節電行動や環境汚染等を含む、社会の持続可能性に関わる人々の意識と行動を明らかにした。

研究成果の学術的意義や社会的意義

EASS 2006と2016の比較およびJGSS累積データ2000-2018から、東アジアの家族の変容ならびに日本における地域社会の持続可能性にかかわる人々の意識と行動の変容を明らかにしつつある。国際社会学会世界社会学会議、韓国保健社会研究院などで報告し、海外の研究者にデータを紹介している。海外のアーカイブとJGSSダウンロードシステム(2021年4月稼働)から一般公開することで、多様な分野で研究が深まる。EASS 2006を含むJGSS-2006は、2020年3月末までに16,632件の利用(内ICPSR経由3,692)があり、少なくとも図書20、論文110、研究報告120以上を生み出した。

研究成果の概要(英文)：This research conducted the 2018 Japanese General Social Survey which included the 2016 East Asian Social Survey family module, and created harmonized international data.

Valid responses were 2660 in Japan, 1015 in Korean, 4132 in China, and 2024 in Taiwan. The research examined changes in families by comparing the EASS 2016 data with the EASS 2006 data. With regards to financial support from children to parents, approximately 70% did not provide any support, and this number did not change over the ten years in Japan. While the proportion of those who provide no financial support to their parents increased to nearly 50% in Taiwan, frequent financial support to parents increased to around 30% in Korea and China.

Combining the data with the Japanese General Social Survey cumulative data file since 2000, the research also explored the perceptions and behaviors on sustainable society, including the use of renewable energy, conservation of electricity, and pollution.

研究分野：社会学

キーワード：東アジア 国際比較 家族 JGSS 自然災害

1. 研究開始当初の背景

本研究で比較対象とする韓国・中国・台湾は、互いに干渉しながら各々の経済発展の道筋を辿ってきた(岩井・上田 2011)。4つの社会はいずれも、儒教的価値観を根底にもち、短期間に工業化、都市化、経済発展を遂げた。Compressed Modernity (Chang 2010)により、少子高齢化が先鋭的な形で現れ、少子化は韓国と台湾で、高齢化は日本で顕著である。しかし、政治体制と産業発展段階の違いから、家族政策のあり方(一人っ子政策のような明示的政策、配偶者控除などの税制を通じた間接的政策など)、家庭や職場における男女の役割、家族の変容のスピードは異なっている。

2. 研究の目的

本研究の目的は、東アジアの4つの社会 日本・韓国・中国・台湾 における家族の変容を比較することである。韓国・中国・台湾と共同で2006年に実施した「East Asian Social Survey 2006 家族モジュール」のデータと比較できる形で、EASS 2016家族モジュールを含む日本版総合的社会調査 JGSS-2017とJGSS-2018を実施した。少子高齢化や女性の就業がさらに進行した4つの社会における家族の変容 家族構成・配偶者選択・結婚観・離婚観・出生・子ども観・夫婦関係・家族行動・世代間扶養と相互援助 を明らかにした。また、日本独自の研究課題として、社会の持続可能性にかかわる人々の意識と行動 所得の再分配、育児・教育責任、高齢者の生活費・介護責任、自然災害のリスク認知、地域の対応力・存続可能性、再生可能エネルギーの利用、節電行動、原発政策、人々の粘り強さ(Grit) を分析した。2000年から2015年まで日本版総合的社会調査(JGSS)を継続して実施しており、この蓄積データと組み合わせた分析も行った。

3. 研究の方法

韓国・中国・台湾の研究チームと共に、2014年7月以降、横浜、台北、北京での会議とメールで議論を重ね、EASS 2006 家族モジュールを基に、10年後の変化を捉えるためのEASS 2016 家族モジュールを作成した。このモジュールを組み込んで実施したJGSS-2017とJGSS-2018は、研究費で収集可能なサンプル規模に余裕がなく、留置調査票を2種類ではなく1種類にせざるを得なかった。健康状態のようなJGSSの継続設問については、EASS尺度ではなくJGSS尺度を採用した。なお、JGSS-2017は共同研究拠点の機能強化支援で実施し、JGSS-2018を本科学研究費で実施した。

データの比較のために継続性を重視して、通常の継続設問に加えて、JGSS-2006から複数の設問を復活させた。とくに家族に関しては、調査対象者の同居世帯員、一時別居の家族、さらに別居している親(配偶者の親)や子どもの属性と、彼らとの交流頻度などについて、JGSSの通常の面接調査票よりも詳細に尋ねている。「社会の持続可能性」に関する設問としては、JGSS-2012とJGSS-2015に続いて、東日本大震災関連設問を加えた。ペット関連項目として「ペットの保有」と「世話しているペット」の設問をJGSS-2006から復活させ、「ペットを世話する時間」と「ペットの医療費」の設問を新たに加えた。墓の継承に関する項目として、「自分の墓について」と「先祖の墓の継承」の設問をJGSS-2015から復活させた。さらに、時事設問として「同性婚について」尋ねている。

表1 各国・地域が実施した調査の概要

| | 日本 | | 韓国 | 台湾 | 中国 |
|-------|---------------|-----------|---------------|---------------|---------------|
| | JGSS-2017 | JGSS-2018 | KGSS 2016 | TSCS 2016 | CGSS 2017 |
| 実施時期 | 2017年1-3月 | 2018年2-4月 | 2016年6-10月 | 2016年8-11月 | 2017年6-12月 |
| 調査方法 | 面接・留置法の併用 | | 面接法 | 面接法 | 面接法 |
| 調査対象 | 20～89歳の男女 | | 18歳以上の男女 | 18歳以上の男女 | 18歳以上の男女 |
| 抽出方法 | 層化2段 無作為抽出 | | 層化4段 無作為抽出 | 層化3段 無作為抽出 | 層化4段 無作為抽出 |
| 計画標本 | 1,500 | 4,000 | 2,400 | 4,000 | 6,000 |
| 有効回答数 | 744 | 1,916 | 1,051 | 2,024 | 4,132 |
| 回収率 | 55.6% | 54.3% | 46.9% | 49.7% | 68.9% |

2017年1月に全国20～89歳の男女1,500人を対象としてJGSS-2017を実施し、2018年2月に全国20～89歳の男女4,000人を対象としてJGSS-2018を実施した。韓国・中国・台湾では、それぞれの研究チームがプリテストを実施した上で、本調査を実施した(表1)。収集した回答を基に、各チームがデータファイルを作成して、クリーニングと国際標準職業分類のコーディングを終えた後、2018年11月に韓国・台湾・日本の統合データを作成した。2019年6月に中国のデータを加えて、EASS 2016国際統合データのクリーニングを開始した。EASS 2006もそうであったが、家族をテーマとするEASS 2016は、同居家族・一時別居家族、離れて住む親と子のそれぞれについて詳細な情報を収集しているために、各

チームでのクリーニングと統合データのクリーニングは複雑で時間を要する。国際統合データは、2020年7月時点で、クリーニングの最終段階にあり、2020年度中に公開予定である。

JGSS-2017、JGSS-2018、EASS 2016 の基礎集計についてはそれぞれ、2019年3月に『日本版 General Social Surveys 基礎集計表・コードブック JGSS-2017』、2020年3月に『日本版 General Social Surveys 基礎集計表・コードブック JGSS-2018』と『East Asian Social Survey EASS 2016 Family Module Codebook』を刊行している。

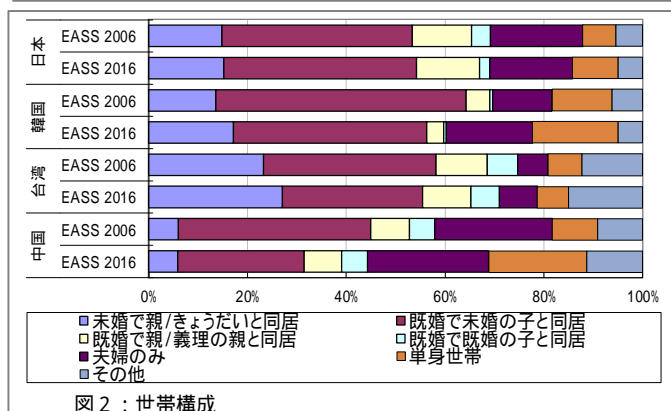
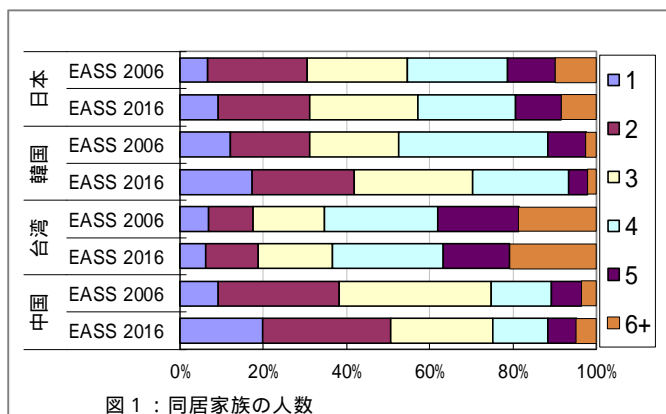
4. 研究成果

(1) EASS 2006 と EASS 2016 の比較

2006年と2016年のデータにおける回答者の基本属性は、表2のとおりである。EASS 2006では中国の調査対象者が70歳未満だったため、本報告書では分析を20～69歳に限定している。韓国では予算による制約で、2016年には標本数を大幅に減らさなければならなかった。2006年と2016年の間に、日本と韓国では回答者の基本属性についてはとくに大きな違いはみられないが、中国では平均年齢が4歳近く上昇し、人口構成の変化が顕著である。教育年数の平均については、各国・地域でのびる傾向がみられる。韓国の女性が1年、中国で男女ともに1年、台湾では男女ともに1.5年程度長くなった。

表2 回答者の属性 (20～69歳に限定)

| | EASS 2006 | | | | EASS 2016 | | | | |
|--------|-----------|------|------|------|-----------|------|------|------|------|
| | 日本 | 韓国 | 台湾 | 中国 | 日本 | 韓国 | 台湾 | 中国 | |
| 有効回答数 | 1756 | 1430 | 1824 | 3110 | 2012 | 847 | 1749 | 3475 | |
| 平均年齢 | 47.8 | 41.2 | 42.0 | 42.9 | 47.9 | 43.9 | 43.4 | 47.2 | |
| 性別(女性) | 55% | 55% | 50% | 55% | 53% | 53% | 49% | 54% | |
| 教育年数 | 男性 | 13.1 | 13.2 | 11.8 | 9.1 | 13.6 | 13.6 | 13.4 | 10.2 |
| | 女性 | 12.5 | 12.1 | 10.9 | 7.9 | 13.0 | 13.3 | 12.6 | 9.1 |



家族・世帯の構成

EASS 2006 と EASS 2016 のテーマである「家族」に関して、10年間における変容について、家族構成、世代間での支援を中心に基礎的な研究結果を示す。図1は、国・地域ごとに同居している家族の人数を2つの調査で比較したものである。台湾では他の国に比べて同居人数が多く、5人以上が4割近くを占めており、この傾向は10年間で変化していない。日本でも10年間でそれほど大きな変化はみられず、1人暮らしが若干増えた程度である。韓国と中国では、10年の間に同居家族の人数は減少して1人暮らしが増えた。とくに中国では10%増加した。

同居者数の変化に関わる要因としては、まず、婚姻状況や子どもの数の変化が考えられる。婚姻状況については、いずれの国・地域においても「現在配偶者がいる」または「同棲中である」の割合が減少し(日本:73.3% 71.1%、韓国69.4% 62.3%、台湾:62.9% 58.9%、中国83.4% 80.4%)、離婚や未婚が増加した。子どもの数については、中国以外で減少傾向にある。

図2は、2006年と2016年の世帯構成を比較している。国・地域によって世帯の構成が大きく異なる。台湾では、未婚で親やきょうだいと同居している割合が高く、

2006年に20%を超えていて、2016年にはさらに増加している。一方、未婚で親やきょうだいと同居する割合は、中国では10%に満たず、2016年も増えていない。韓国と中国では、典型的な「核家族」

である既婚夫婦と未婚の子どもの同居が10年の間に大幅に減少している。

世代間の相互支援

EASSの家族モジュールでは世代間での支援（経済的な支援と実践的な支援）についても尋ねている。親への支援と親からの支援について、それぞれ「非常に頻繁に」、「頻繁に」、「時々」、「ほとんどない」、「まったくない」の5件法で尋ねた。親への経済的支援については、他の国・地域と比べて日本では大幅に少なく、7割以上が「支援なし」（「ほとんどない」+「まったくない」）と答えており、10年間に変化はなかった。これに対して台湾では、支援なしの割合が2006年の4割未満から2016年には5割近くまで増えた。韓国と中国では、10年間に「頻繁に」（「非常に頻繁に」+「頻繁に」）支援している割合が増えており、韓国では23.7%から28.1%に、中国では23.3%から33.4%に増加した。親への実践的支援についても同様に、日本での支援頻度が他の国・地域より少ないが、経済的支援に比べて、その差は小さい。2006年と2016年のどちらにおいても、日本では5割程度が「支援なし」と回答しているのに対して、他の国・地域では3割から4割程度であった。

親から子への経済的支援については、韓国で頻度が高く、2006年に2割以上が「頻繁に」と回答し、2016年には3割近くまで増加した。中国と日本でもこの割合は増加した（中国では11.4%から15.4%；日本では14.4%から15.1%）。これに対して、最も頻度が低い台湾では10年間に減少傾向にあり、12.7%から10.4%に減少した。親から子への実践的支援については経済的支援に比べて、国・地域による違いは小さい。親から子への実践的支援の頻度は台湾で最も高く2006年、2016年とも3.5割が親から頻繁に実践的支援を受けている。一方、韓国と中国では2016年に5%程度ずつ増加して、韓国で約3割、中国では約2.5割となり、日本では2.5割のままほとんど変化していない。

（2）JGSS 累積データによる分析

JGSSでは、節電行動に関しては2002年の調査から、再生可能エネルギーに関しては2008年の調査から、大気汚染と水質汚染の意識については2010年の調査から、設問を取り入れてデータを収集している。これらの設問に対する回答の推移をみることで、人々の環境に関する意識や行動についての変化を検討することができる。

節電行動と再生可能エネルギーの利用

節電行動に関しては、「電気をこまめに消す」習慣は、東日本大震災の前から日本に根付いていた。2002年の時点で84.7%が「こまめに」（よく47.8%+時々36.9%）消していた。2008年は89.2%、2012年は90.0%、2015年は88.2%、2018年は87.8%で、ほとんど変化はない。JGSS-2012以降は、消費電力を積極的に減らす工夫（照明を間引く、冷房の設定温度を上げる、日よけを活用する、扇風機に切り替える）についても尋ねている。東日本大震災後には多くの人が取り組み、2012年は76.3%（よく30.8%+時々45.5%）であったが、2015年は73.9%、2018年は71.4%と若干減少している。

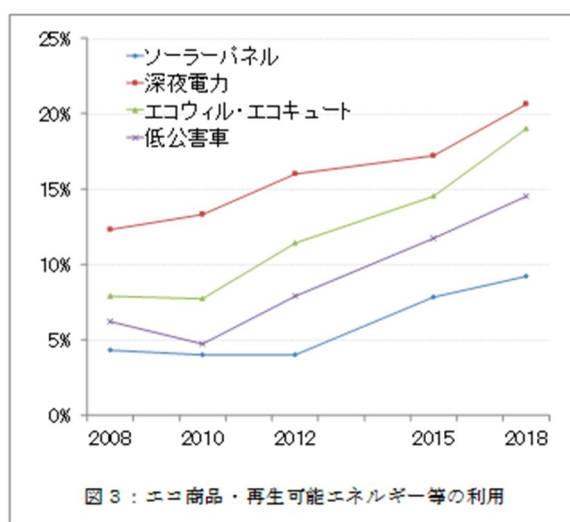


図3：エコ商品・再生可能エネルギー等の利用

再生可能エネルギーの利用については、JGSS-2008以降、ソーラーパネル、深夜電力、エコウィル・エコキュートと低公害車の自宅における利用の有無について尋ねている。図3のとおり、いずれの利用についても緩やかに増加している。

環境汚染に関する意識

居住地域における大気汚染と水質汚染の深刻さについては、EASS 2010健康モジュールを作成する際に、中国チームの提案で設問に組み入れた。中国では、当時から問題になっていたためである。東日本大震災後に実施したJGSS-2012以降は、土壌汚染と放射性物質による食品汚染の意識項目を追加している。回答の選択肢は、食品汚染については、「1 とても不安」から「4 まったく不安ではない」の4件法で、その他の汚染については、

「1 とても深刻」から「4 まったく深刻ではない」の4件法である。分析の際には、値が高いほど「深刻」になるように反転させている。

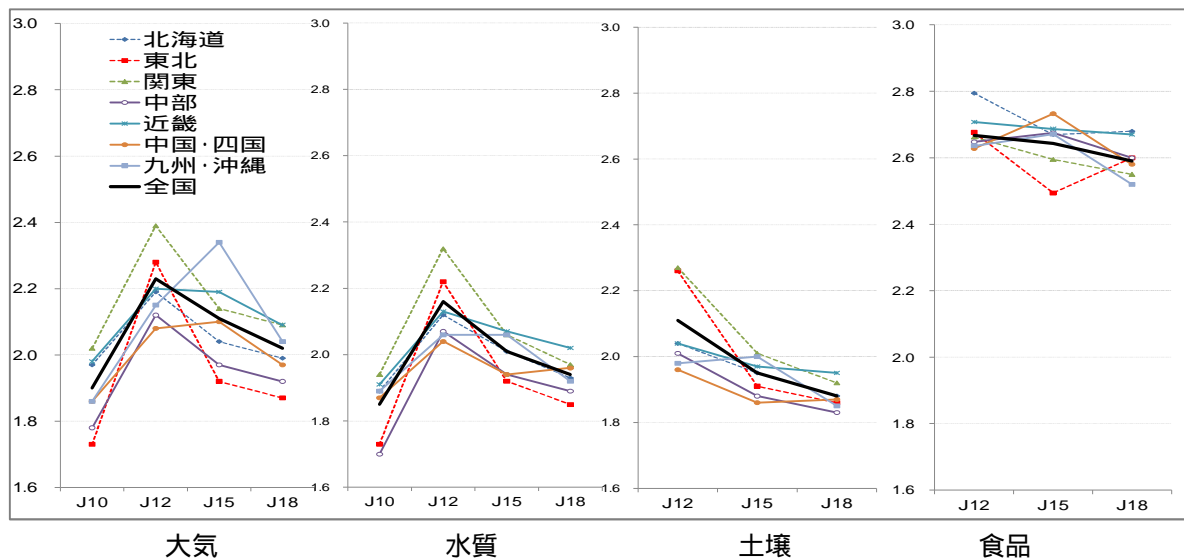


図4：汚染意識の推移

図4に示すように、居住地域における大気汚染と水質汚染の深刻さは、日本全国で2010年の調査に比べて、福島第1原発事故後の2012年の調査では急上昇しており、t検定の結果、いずれの地域においても有意差がみられた(表3)。2012年から2015年にかけては、汚染意識は多くの地域で大きく低下し、2015年から2018年にかけては、さらに緩やかな低下を示している。とくに東北地方では汚染意識の低下が顕著であるが、原発事故の前の2010年に比べると、まだ高い状態である。土壌汚染意識については、2012年以降のデータしかないが、おおむね大気汚染と水質汚染と似た傾向を示している。なお、大気汚染については、九州ブロックにおいて、2012年よりも2015年の汚染意識が有意に高く、他の地域とは異なる傾向を示す(表3)。これは2013年頃から報道されるようになった大陸からの大気汚染物質PM2.5や黄砂などの飛来が影響している可能性が考えられる。放射性物質による食品汚染に関する意識は、2012年以降、全国平均で2.6前後を推移しており、2018年においても高い状態を示し続けている。ただし、原発事故前のデータがないので、そもそも注意しているのかもわからない。

表3：環境汚染意識の変化(t検定)

| | 大気汚染 | | | | 水質汚染 | | | | 土壌汚染 | | | | 食品汚染 | | | | |
|-------|------|-----|-----|-----|------|-----|-----|-----|------|-----|-----|-----|------|-----|-----|-----|-----|
| | J10 | J12 | J15 | J18 | J10 | J12 | J15 | J18 | J12 | J15 | J18 | J12 | J15 | J18 | J12 | J15 | J18 |
| 北海道 | + | | | | + | | | | | | | | | | | | |
| 東北 | + | - | | | + | - | | | - | | | | | | - | | |
| 関東 | + | - | | | + | - | | | - | | | | | | | | |
| 中部 | + | - | | | + | - | | | - | | | | | | | | |
| 近畿 | + | | | - | + | | | | | | | | | | | | |
| 中国・四国 | + | | | - | + | | | | | | | | | | | | |
| 九州・沖縄 | + | + | | - | + | | | | - | | | | | - | | | |

(5%水準で有意)

以上のように、EASS 2006とEASS 2016の比較およびJGSS累積データから、東アジアの家族の変容や日本国内での社会の持続可能性にかかわる人々の意識と行動の変化についての分析が可能となった。JGSS-2017、JGSS-2018、EASS 2016のデータは、2020年度中に一般公開する予定である。大阪商業大学JGSS研究センターが構築中のデータダウンロードシステムに掲載し(2021年4月稼働)、海外のアーカイブに寄託する。幅広い研究分野にかかわる国際比較が可能なデータを提供することで、さらに多くの研究者による2次利用が可能となる。

引用文献

岩井紀子・上田光明編 2011『データで見る東アジアの文化と価値観 東アジア社会調査による日韓中台の比較2』ナカニシヤ出版
 Chang, K. S. (2010). South Korea under Compressed Modernity: Familial Political Economy in Transition. Routledge: New York.

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計13件（うち査読付論文 0件 / うち国際共著 1件 / うちオープンアクセス 9件）

| | |
|--|---------------------|
| 1. 著者名 佐々木尚之 | 4. 巻 19 |
| 2. 論文標題 三世同居は女性の就業・出生を促進するのか？ JGSS-2009LCSデータによる因果効果の推定 | 5. 発行年 2020年 |
| 3. 雑誌名 日本版総合的社会調査共同研究拠点研究論文集 | 6. 最初と最後の頁 1-9 |
| 掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし | 査読の有無 無 |
| オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である） | 国際共著 - |
| 1. 著者名 穴戸邦章・岩井紀子 | 4. 巻 5 |
| 2. 論文標題 大規模自然災害・原発災害発生のリスク認知と原子力政策・エネルギー利用に関する意識の推移 JGSS-2008/2012/2015/2017/2018 | 5. 発行年 2019年 |
| 3. 雑誌名 震災問題研究交流会 研究報告書 | 6. 最初と最後の頁 87-93 |
| 掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし | 査読の有無 無 |
| オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である） | 国際共著 - |
| 1. 著者名 TSAI, Ming-Chang & IWAI, Noriko | 4. 巻 13 |
| 2. 論文標題 An Introduction to Quality of Life in Japan: Contemporary Approaches | 5. 発行年 2019年 |
| 3. 雑誌名 Quality of Life in Japan: Contemporary Perspectives on Happiness(Quality of Life in Asia) | 6. 最初と最後の頁 3-14 |
| 掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし | 査読の有無 無 |
| オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難 | 国際共著 該当する |
| 1. 著者名 SHISHIDO, Kuniaki & SASAKI, Takayuki | 4. 巻 13 |
| 2. 論文標題 Happiness in Japan: A Hierarchical Age-Period-Cohort Analysis Based on JGSS Cumulative Data 2000-2015 | 5. 発行年 2019年 |
| 3. 雑誌名 Quality of Life in Japan: Contemporary Perspectives on Happiness(Quality of Life in Asia) | 6. 最初と最後の頁 15-45 |
| 掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし | 査読の有無 無 |
| オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難 | 国際共著 - |

| | |
|--|-----------------------|
| 1. 著者名 Iwai, Hachiro | 4. 巻 13 |
| 2. 論文標題 Changing Lives of the Japanese Elderly Under Uncertainty: An Analysis of Family Types and Economic Status | 5. 発行年 2019年 |
| 3. 雑誌名 Quality of Life in Japan: Contemporary Perspectives on Happiness(Quality of Life in Asia) | 6. 最初と最後の頁 133-149 |
| 掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし | 査読の有無 無 |
| オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難 | 国際共著 - |

| | |
|--|-----------------------|
| 1. 著者名 岩井紀子・宍戸邦章 | 4. 巻 4 |
| 2. 論文標題 JGSSでみる大規模災害発生のリスク認知と原子力政策に関する意識およびエネルギー利用行動の推移 | 5. 発行年 2018年 |
| 3. 雑誌名 東日本大震災研究交流会 研究報告書 | 6. 最初と最後の頁 100-105 |
| 掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし | 査読の有無 無 |
| オープンアクセス オープンアクセスとしている(また、その予定である) | 国際共著 - |

| | |
|--|---------------------|
| 1. 著者名 園部香里・岩井八郎・孟哲男・眞住優助・岩井紀子 | 4. 巻 18 |
| 2. 論文標題 JGSS-2015/2016 から見る教育歴の多様化と働き方 出生コーホート間の比較を中心にー | 5. 発行年 2019年 |
| 3. 雑誌名 日本版総合的社会調査共同研究拠点研究論文集 | 6. 最初と最後の頁 47-61 |
| 掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし | 査読の有無 無 |
| オープンアクセス オープンアクセスとしている(また、その予定である) | 国際共著 - |

| | |
|--|---------------------|
| 1. 著者名 吉野智美・孟哲男・岩井紀子 | 4. 巻 18 |
| 2. 論文標題 JGSS-2017グローバル化調査票およびEASS2018グローバル化調査票の作成 | 5. 発行年 2019年 |
| 3. 雑誌名 日本版総合的社会調査共同研究拠点研究論文集 | 6. 最初と最後の頁 63-73 |
| 掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし | 査読の有無 無 |
| オープンアクセス オープンアクセスとしている(また、その予定である) | 国際共著 - |

| | |
|---|---------------------|
| 1. 著者名 Iwai, Hachiro | 4. 巻 18 |
| 2. 論文標題 Family changes and Family Values in Asian Societies: Exploring Similarities and Differences Based on EASS 2006/2016 and CAFS | 5. 発行年 2019年 |
| 3. 雑誌名 日本版総合的社会調査共同研究拠点研究論文集 | 6. 最初と最後の頁 29-45 |
| 掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし | 査読の有無 無 |
| オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である) | 国際共著 - |

| | |
|---|-----------------------|
| 1. 著者名 穴戸邦章 | 4. 巻 191・192 合併号 |
| 2. 論文標題 日本は両立支援型の社会に移行しつつあるか? JGSS累積データ2000-2015に基づく分析 | 5. 発行年 2019年 |
| 3. 雑誌名 大阪商業大学論集 | 6. 最初と最後の頁 437-449 |
| 掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし | 査読の有無 無 |
| オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難 | 国際共著 - |

| | |
|---|---------------------|
| 1. 著者名 西川一ニ・角野隆則・岩井紀子 | 4. 巻 17 |
| 2. 論文標題 JGSS-2017調査票の設計 EASS 2016 家族モジュールと新規項目(同性の結婚・Gritスケール) | 5. 発行年 2017年 |
| 3. 雑誌名 日本版総合的社会調査共同研究拠点論文集 | 6. 最初と最後の頁 41-54 |
| 掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし | 査読の有無 無 |
| オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である) | 国際共著 - |

| | |
|--|-----------------------|
| 1. 著者名 岩井紀子 | 4. 巻 29(2) |
| 2. 論文標題 日本・韓国・中国・台湾における家族の変化とEast Asian Social Survey 2016 のねらい | 5. 発行年 2017年 |
| 3. 雑誌名 家族社会学研究 | 6. 最初と最後の頁 155-164 |
| 掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし | 査読の有無 無 |
| オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である) | 国際共著 - |

| | |
|--|---------------------|
| 1. 著者名 岩井紀子・穴戸邦章 | 4. 巻 3 |
| 2. 論文標題 原発避難自治体の住民意向調査にみる帰還意識の推移とJGSSでみる原発とエネルギーに関する意識の推移 | 5. 発行年 2018年 |
| 3. 雑誌名 東日本大震災研究交流会 研究報告書 | 6. 最初と最後の頁 19-24 |
| 掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし | 査読の有無 無 |
| オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である) | 国際共著 - |

[学会発表] 計60件 (うち招待講演 13件 / うち国際学会 38件)

| |
|---|
| 1. 発表者名 孟哲男 |
| 2. 発表標題 JGSSの回収率に関する研究: 接触成功率・協力獲得率とインターフォンの種類 |
| 3. 学会等名 JGSS国際シンポジウム2020 (国際学会) |
| 4. 発表年 2020年 |

| |
|------------------------------------|
| 1. 発表者名 穴戸邦章 |
| 2. 発表標題 JGSS累積データから見る日本人の意識と行動 |
| 3. 学会等名 JGSS国際シンポジウム2020 (国際学会) |
| 4. 発表年 2020年 |

| |
|--|
| 1. 発表者名 釜野さおり |
| 2. 発表標題 日本における同性間の婚姻に対する意識: JGSS-2018を用いた分析 |
| 3. 学会等名 JGSS国際シンポジウム2020 (国際学会) |
| 4. 発表年 2020年 |

| |
|------------------------------------|
| 1. 発表者名 阿部彩 |
| 2. 発表標題 JGSSからみる貧困と家族からの孤立 |
| 3. 学会等名 JGSS国際シンポジウム2020 (国際学会) |
| 4. 発表年 2020年 |

| |
|---|
| 1. 発表者名 SASAKI, Takayuki |
| 2. 発表標題 Results from EASS 2006 and EASS 2016 Family Module |
| 3. 学会等名 JGSS国際シンポジウム2020 (国際学会) |
| 4. 発表年 2020年 |

| |
|--|
| 1. 発表者名 Takemoto, Keisuke |
| 2. 発表標題 Results from EASS 2008 and EASS 2018 Globalization Module |
| 3. 学会等名 JGSS国際シンポジウム2020 (国際学会) |
| 4. 発表年 2020年 |

| |
|--|
| 1. 発表者名 Iwai, Noriko, SHISHIDO, Kuniaki, SASAKI, Takayuki |
| 2. 発表標題 Changes of Family Values and Behavior in Four East Asian Societies based on EASS 2006 and EASS 2016 |
| 3. 学会等名 International Sociological Association Research Committee 06 Family Research (国際学会) |
| 4. 発表年 2019年 |

| |
|--|
| 1 . 発表者名 Iwai,Noriko,YOSHINO,Satomi |
| 2 . 発表標題 The Effects of Differences in Response Scale in Cross-National Surveys |
| 3 . 学会等名 European Survey Research Association Conference (国際学会) |
| 4 . 発表年 2019年 |

| |
|---|
| 1 . 発表者名 Iwai,Noriko |
| 2 . 発表標題 Religion, Grave and Religious Observance in Japan: JGSS cumulative data 2000-2018 |
| 3 . 学会等名 East Asian Society for the Scientific Study of Religion Session 1 (国際学会) |
| 4 . 発表年 2019年 |

| |
|---|
| 1 . 発表者名 Iwai,Noriko |
| 2 . 発表標題 Changes of Household Composition, Intergenerational Exchanges and Attitudes Toward Inheritance of the Family Grave: Based on JG-2000/2001/2010 /2015 /2018 Data |
| 3 . 学会等名 International Sociological Association Research Committee 06 Family Research-Vietnam Sociological Association International Conference (国際学会) |
| 4 . 発表年 2019年 |

| |
|---|
| 1 . 発表者名 Iwai,Noriko, SHISHIDO,Kuniaki |
| 2 . 発表標題 Changes in Perception of Disaster Risks and Attitudes Toward Nuclear Energy Policy: Trends in Public Opinion Surveys and Analysis Using JGSS Data |
| 3 . 学会等名 7TH International Symposium on Environmental Sociology in East Asia (国際学会) |
| 4 . 発表年 2019年 |

| |
|--|
| 1. 発表者名 YOSHINO, Satomi |
| 2. 発表標題 Social Exclusion and Well-being of Older People in Japan |
| 3. 学会等名 11th International Association of Gerontology and Geriatrics Asia/Oceania Regional Congress 2019 (国際学会) |
| 4. 発表年 2019年 |

| |
|--|
| 1. 発表者名 SASAKI, Takayuki, Matsuda, Shigeki, & Liu, Yu-Fei |
| 2. 発表標題 The impact of childcare policy on fertility and maternal employment |
| 3. 学会等名 The 6th Korean Inequality Research Network Symposium (招待講演) (国際学会) |
| 4. 発表年 2019年 |

| |
|---|
| 1. 発表者名 SASAKI, Takayuki |
| 2. 発表標題 Causality and policy evaluation: Does intergenerational coresidence increase childbirth? |
| 3. 学会等名 The 2019 Australian Social Policy Conference (招待講演) (国際学会) |
| 4. 発表年 2019年 |

| |
|---|
| 1. 発表者名 SASAKI, Takayuki |
| 2. 発表標題 The effects of family policy on Japanese family wellbeing |
| 3. 学会等名 The Sixth Conference of International Consortium for Social Well-Being Studies (招待講演) (国際学会) |
| 4. 発表年 2019年 |

| |
|---|
| 1. 発表者名 SASAKI, Takayuki |
| 2. 発表標題 Intergenerational coresidence and fertility in Japan |
| 3. 学会等名 The 21st Nordic Demographic Symposium (招待講演) (国際学会) |
| 4. 発表年 2019年 |

| |
|--|
| 1. 発表者名 SASAKI, Takayuki |
| 2. 発表標題 What can Developmental Psychologists do to demonstrate immediate solutions for social problems? |
| 3. 学会等名 The British Psychological Society Cognitive Psychology Section & Developmental Psychology Section (招待講演) (国際学会) |
| 4. 発表年 2019年 |

| |
|----------------------------------|
| 1. 発表者名 穴戸邦章 |
| 2. 発表標題 日本人の幸福感 計量社会学からのアプローチ |
| 3. 学会等名 日本情動学会第9回大会 (招待講演) |
| 4. 発表年 2019年 |

| |
|--|
| 1. 発表者名 Iwai, Hachiro |
| 2. 発表標題 Changing Lives of the Japanese Elderly Under Uncertainty: An Analysis of Family Types and Economic Status Based on SSM 2005 |
| 3. 学会等名 International Sociological Association Research Committee 06 Family Research (国際学会) |
| 4. 発表年 2019年 |

| |
|--|
| 1 . 発表者名 IWAI,Hachiro |
| 2 . 発表標題 Exploring Similarities and Differences in Gender Role Attitudes and Practices in Asian Societies: Based on EASS 2006/16 and CAFS |
| 3 . 学会等名 European Survey Research Association Conference |
| 4 . 発表年 2019年 |

| |
|---|
| 1 . 発表者名 IWAI,Hachiro |
| 2 . 発表標題 Exploring Similarities and Differences in the Effects of Higher Education on Gender Role Attitudes and Practices in Asian Societies: Based on EASS 2006/16 and CAFS |
| 3 . 学会等名 International Sociological Association Research Committee 06 Family Research-Vietnam Sociological Association International Conference (国際学会) |
| 4 . 発表年 2019年 |

| |
|---|
| 1 . 発表者名 KIM, Jibum, WANG, Weidong, FU, Yang-chih, & IWAI, Noriko |
| 2 . 発表標題 East Asian Social Survey |
| 3 . 学会等名 114th American Sociological Association Annual Meeting (国際学会) |
| 4 . 発表年 2019年 |

| |
|---|
| 1 . 発表者名 IWAI, Noriko |
| 2 . 発表標題 Changes in Industrial Societies and Family Structure and Relations in Japan |
| 3 . 学会等名 JGSS Research Seminar (国際学会) |
| 4 . 発表年 2018年 |

| |
|--|
| 1. 発表者名 IWAI, Noriko |
| 2. 発表標題 Changes of Family Values and Behavior in Four East Asian Societies Based on EASS 2006 and EASS 2016 |
| 3. 学会等名 XIX ISA World Congress of Sociology (国際学会) |
| 4. 発表年 2018年 |

| |
|--|
| 1. 発表者名 IWAI, Noriko, SHISHIDO, Kuniaki |
| 2. 発表標題 Gender Differences in Attitudes Toward the Nuclear Power Policies and in Pro-Environment Behavior: Empirical Results Based on Japanese General Social Survey Data |
| 3. 学会等名 XIX ISA World Congress of Sociology (国際学会) |
| 4. 発表年 2018年 |

| |
|--|
| 1. 発表者名 IWAI, Noriko |
| 2. 発表標題 Changes in Traditional Values and Attitudes towards Globalization in Japan Based on EASS 2008 and EASS 2018 |
| 3. 学会等名 EASS Conference 2018 (国際学会) |
| 4. 発表年 2018年 |

| |
|--|
| 1. 発表者名 IWAI, Noriko, SHISHIDO, Kuniaki, SASAKI, Takayuki |
| 2. 発表標題 Changes in Family Values and Behavior in Four East Asian Societies Based on EASS 2006 and EASS 2016 |
| 3. 学会等名 EASS 2018 Seoul Meeting (国際学会) |
| 4. 発表年 2018年 |

| |
|--|
| 1. 発表者名 岩井紀子 |
| 2. 発表標題 日本における伝統的価値観とグローバリゼーションに対する意識の変化 EASS 2008とEASS 2018の比較 |
| 3. 学会等名 JGSS研究発表会2018 |
| 4. 発表年 2018年 |

| |
|--|
| 1. 発表者名 穴戸邦章・岩井紀子 |
| 2. 発表標題 大規模自然災害・原発災害発生のリスク認知と原子力政策・エネルギー利用に関する意識の推移 JGSS-2008/2012/2015/2017/2018 |
| 3. 学会等名 第5回震災問題研究交流会 |
| 4. 発表年 2019年 |

| |
|--|
| 1. 発表者名 SASAKI, Takayuki |
| 2. 発表標題 Long-term effects of full-time childcare on family lives in Japan |
| 3. 学会等名 9th European Society on Family Relations Conference (国際学会) |
| 4. 発表年 2018年 |

| |
|---------------------------------|
| 1. 発表者名 佐々木尚之 |
| 2. 発表標題 親子関係を三世代にわたって捉える重要性 |
| 3. 学会等名 第30回日本発達心理学会大会(招待講演) |
| 4. 発表年 2019年 |

| |
|---|
| 1. 発表者名 TAKEMOTO, Keisuke |
| 2. 発表標題 Changes in Cultural Contacts and Social Distance in Japan Based on EASS 2008 and EASS 2018 |
| 3. 学会等名 EASS Conference 2018 (国際学会) |
| 4. 発表年 2018年 |

| |
|--|
| 1. 発表者名 竹本圭佑 |
| 2. 発表標題 日本における文化的接触と社会的距離に対する意識の変化 EASS 2008とEASS 2018の比較 |
| 3. 学会等名 JGSS研究発表会2018 |
| 4. 発表年 2019年 |

| |
|---|
| 1. 発表者名 IWAI, Hachiro |
| 2. 発表標題 Changing Patterns of Asian Family Values and Practices: Comparative Studies Based on Cross-National Datasets in Asia |
| 3. 学会等名 XIX ISA World Congress of Sociology (国際学会) |
| 4. 発表年 2018年 |

| |
|---|
| 1. 発表者名 IWAI, Hachiro |
| 2. 発表標題 Family Changes and Family Values in Asian Societies: Exploring Similarities and Differences Based on EASS 2006/2016 and CAFS |
| 3. 学会等名 EASS 2018 Seoul Meeting (国際学会) |
| 4. 発表年 2018年 |

| |
|---|
| 1. 発表者名 岩井紀子 |
| 2. 発表標題 社会調査の環境の変化と回収率の低下 |
| 3. 学会等名 日本学術会議社会学委員会社会統計調査アーカイブ分科会・一般社団法人社会調査協会共催公開シンポジウム「社会調査をめぐる諸問題とその解決策」(招待講演) |
| 4. 発表年 2017年 |

| |
|--|
| 1. 発表者名 IWAI, Noriko |
| 2. 発表標題 Working Situations for Women in East Asia |
| 3. 学会等名 EASS Conference 2017 (国際学会) |
| 4. 発表年 2017年 |

| |
|---|
| 1. 発表者名 IWAI, Hachiro |
| 2. 発表標題 Education and Jobs: Match or Mismatch in Three Societies |
| 3. 学会等名 EASS Conference 2017 (国際学会) |
| 4. 発表年 2017年 |

| |
|---|
| 1. 発表者名 IWAI, Noriko |
| 2. 発表標題 Effects of Differences in Response Scale in Cross-National Surveys |
| 3. 学会等名 The 1st RC33 Regional Conference (国際学会) |
| 4. 発表年 2017年 |

| |
|---|
| 1. 発表者名 Iwai, Noriko |
| 2. 発表標題 Measuring religion in Japan: ISM, NHK and JGSS |
| 3. 学会等名 Survey Research and the Study of Religion in East Asia (招待講演) (国際学会) |
| 4. 発表年 2017年 |

| |
|---|
| 1. 発表者名 孟哲男・岩井紀子・吉野智美 |
| 2. 発表標題 社会調査における接触率・協力獲得率・回収率と住居形態 JGSS に基くオートロック付き集合住宅の分析 |
| 3. 学会等名 第90回 日本社会学会大会 |
| 4. 発表年 2017年 |

| |
|--|
| 1. 発表者名 岩井紀子 |
| 2. 発表標題 原発避難に関する住民意向調査にみる帰還意識の推移と帰還状況 |
| 3. 学会等名 第90回 日本社会学会大会 |
| 4. 発表年 2017年 |

| |
|--|
| 1. 発表者名 Iwai, Noriko |
| 2. 発表標題 Changing Japanese Families |
| 3. 学会等名 Global Challenges for Families in Asia & Africa, International Sociological Association, Committee on Family Research (RC06) & UNAM Facultad De Economia. (招待講演) (国際学会) |
| 4. 発表年 2017年 |

| |
|--|
| 1. 発表者名 IWAI, Hachiro |
| 2. 発表標題 Women's Job Shift Patterns in the Japan's Post-Fordist Era |
| 3. 学会等名 Global Challenges for Families in Asia & Africa, International Sociological Association, Committee on Family Research (RC06) & UNAM Facultad De Economia. (招待講演) (国際学会) |
| 4. 発表年 2017年 |

| |
|---|
| 1. 発表者名 IWAI, Noriko |
| 2. 発表標題 Changes in Attitudes toward Gender Roles and the Rigidity of the Japanese Social System: An Analysis of Family Module in JGSS-2006 and JGSS-2017 |
| 3. 学会等名 Committee on Family Research (RC06) ISA & UNAM Facultad De Economia, Parallel Session III. B. Education, Intergenerational Relations and Families, Parallel Session III. B. (国際学会) |
| 4. 発表年 2017年 |

| |
|---|
| 1. 発表者名 IWAI, Hachiro |
| 2. 発表標題 Changes in the Meaning of the Elderly Living with Children: An Analysis of Household Income Inequality among the Japanese Elderly |
| 3. 学会等名 Committee on Family Research (RC06) ISA & UNAM Facultad De Economia, Parallel Session III. B. Education, Intergenerational Relations and Families, Parallel Session I. C. (国際学会) |
| 4. 発表年 2017年 |

| |
|--|
| 1. 発表者名 吉野智美 |
| 2. 発表標題 JGSS -2017グローバルゼーション調査票の設計(1)Grit・Media |
| 3. 学会等名 JGSS研究発表会2017 |
| 4. 発表年 2017年 |

| |
|--|
| 1. 発表者名 岩井紀子 |
| 2. 発表標題 JGSS -2017グローバルゼーション調査票の設計(2)宗教・墓 |
| 3. 学会等名 JGSS研究発表会2017 |
| 4. 発表年 2017年 |

| |
|--|
| 1. 発表者名 吉野智美 |
| 2. 発表標題 JGSS -2018調査票の設計 EASS 2016家族モジュール |
| 3. 学会等名 JGSS研究発表会2017 |
| 4. 発表年 2017年 |

| |
|---|
| 1. 発表者名 岩井紀子 |
| 2. 発表標題 JGSS -2017調査の結果 東アジアの家族意識の変化 |
| 3. 学会等名 JGSS研究発表会2017 |
| 4. 発表年 2017年 |

| |
|--|
| 1. 発表者名 六戸邦章 |
| 2. 発表標題 JGSS -2017調査の結果 自然災害のリスク認知・原発政策 |
| 3. 学会等名 JGSS研究発表会2017 |
| 4. 発表年 2017年 |

| |
|--|
| 1. 発表者名 孟哲男 |
| 2. 発表標題 オートロック付き集合住宅の協力獲得率は低いのか JGSSにおける訪問記録の分析から |
| 3. 学会等名 JGSS研究発表会2017 |
| 4. 発表年 2017年 |

| |
|---|
| 1. 発表者名 岩井八郎 |
| 2. 発表標題 高齢者における子どもとの同居の意味 JGSS 2008-12による世帯所得の分析 |
| 3. 学会等名 JGSS研究発表会2017 |
| 4. 発表年 2017年 |

| |
|---|
| 1. 発表者名 佐々木尚之 |
| 2. 発表標題 社会調査におけるMultiple Informantの重要性 |
| 3. 学会等名 JGSS研究発表会2017 |
| 4. 発表年 2017年 |

| |
|--|
| 1. 発表者名 六戸邦章 |
| 2. 発表標題 日本人の意識と行動の変化 JGSS累積データ2000-2015 |
| 3. 学会等名 JGSS研究発表会2017 |
| 4. 発表年 2017年 |

| |
|---|
| 1. 発表者名 岩井八郎 |
| 2. 発表標題 女性の職業移動と職場環境意識 JGSS-2015/16の分析 |
| 3. 学会等名 JGSS研究発表会2017 |
| 4. 発表年 2017年 |

| |
|---|
| 1. 発表者名 岩井紀子・穴戸邦章 |
| 2. 発表標題 大規模自然災害・原発災害発生のリスク認知と原子力政策・エネルギー利用に関する意識の推移 JGSS-2008/2012/2015/2017 |
| 3. 学会等名 第4回震災問題研究交流会 |
| 4. 発表年 2017年 |

| |
|--|
| 1. 発表者名 穴戸邦章 |
| 2. 発表標題 東アジア社会調査による日韓中台の比較 EASS2016モジュールの分析から |
| 3. 学会等名 第27回日本家族社会学会大会（招待講演） |
| 4. 発表年 2017年 |

| |
|---|
| 1. 発表者名 岩井八郎 |
| 2. 発表標題 アジアの家族変動と家族意識 アジア比較調査（CAFS）からみた多様性と共通性 |
| 3. 学会等名 第27回日本家族社会学会大会（招待講演） |
| 4. 発表年 2017年 |

| |
|--|
| 1. 発表者名 KIM, Jibum, FU, Yang-Chih, IWAI, Noriko, KIM, Seokho, WANG, Weidong |
| 2. 発表標題 East Asian Social Survey (EASS) |
| 3. 学会等名 112th ASA Annual Meeting (国際学会) |
| 4. 発表年 2017年 |

〔図書〕 計18件

| | |
|---------------------|-----------------|
| 1. 著者名 谷岡一郎 | 4. 発行年 2019年 |
| 2. 出版社 自由国民社 | 5. 総ページ数 240 |
| 3. 書名 ランキングのカラクリ | |

| | |
|---------------------|-----------------|
| 1. 著者名 伊達平和・高田聖治 | 4. 発行年 2020年 |
| 2. 出版社 学術図書出版社 | 5. 総ページ数 224 |
| 3. 書名 社会調査法 | |

| | |
|--|-----------------|
| 1. 著者名 日本版総合的社会調査共同研究拠点 大阪商業大学JGSS 研究センター | 4. 発行年 2020年 |
| 2. 出版社 日本版総合的社会調査共同研究拠点 大阪商業大学JGSS 研究センター | 5. 総ページ数 314 |
| 3. 書名 日本版General Social Surveys基礎集計表・コードブック JGSS-2018 | |

| | |
|---|-----------------|
| 1. 著者名 日本版総合の社会調査共同研究拠点 大阪商業大学JGSS 研究センター | 4. 発行年 2020年 |
| 2. 出版社 日本版総合の社会調査共同研究拠点 大阪商業大学JGSS 研究センター | 5. 総ページ数 224 |
| 3. 書名 日本版General Social Surveys基礎集計表・コードブック JGSS-2018G | |

| | |
|---|-----------------|
| 1. 著者名 TSAI, Ming-Chang & IWAI, Noriko Eds. | 4. 発行年 2020年 |
| 2. 出版社 Springer | 5. 総ページ数 220 |
| 3. 書名 Quality of Life in Japan: Contemporary Perspectives on Happiness | |

| | |
|---|---------------------------|
| 1. 著者名 SASAKI, Takayuki in K. Repo, M. Alasuutari, K. Karila, & J. Lammi-Taskula (Eds). | 4. 発行年 2020年 |
| 2. 出版社 Edward Elgar | 5. 総ページ数 180 (60-72) |
| 3. 書名 The Policies of Childcare and Early Childhood Education: Does Equal Access Matter?, Chapter 5, The long-term effects of full-time childcare on family lives in Japan | |

| | |
|--|-----------------|
| 1. 著者名 日本版総合の社会調査共同研究拠点 大阪商業大学JGSS 研究センター | 4. 発行年 2020年 |
| 2. 出版社 日本版総合の社会調査共同研究拠点 大阪商業大学JGSS 研究センター | 5. 総ページ数 380 |
| 3. 書名 JGSS国際シンポジウム2020 報告書 | |

| | |
|-----------------------------------|-----------------|
| 1. 著者名 佐々木尚之・高濱裕子 | 4. 発行年 2018年 |
| 2. 出版社 風間書房 | 5. 総ページ数 248 |
| 3. 書名 三世代の親子関係 マッチングデータによる実証研究 | |

| | |
|---|--------------------------|
| 1. 著者名 池田謙一・竹本圭佑 in 浅野正彦・ジル・スティール編 | 4. 発行年 2018年 |
| 2. 出版社 北大路書房 | 5. 総ページ数 372(195-222) |
| 3. 書名 現代日本社会の権力構造, 第11章, 東アジアにおける階層的なソーシャルネットワークがもたらす勢力の検討 | |

| | |
|--|-----------------|
| 1. 著者名 日本版総合的社会調査共同研究拠点 大阪商業大学JGSS研究センター・京都大学大学院教育学研究科教育社会学講座 | 4. 発行年 2019年 |
| 2. 出版社 日本版総合的社会調査共同研究拠点 大阪商業大学JGSS研究センター | 5. 総ページ数 230 |
| 3. 書名 日本版総合的社会調査共同研究拠点論文集 [18] | |

| | |
|---|-----------------|
| 1. 著者名 日本版総合的社会調査共同研究拠点 大阪商業大学JGSS研究センター | 4. 発行年 2019年 |
| 2. 出版社 日本版総合的社会調査共同研究拠点 大阪商業大学JGSS研究センター | 5. 総ページ数 152 |
| 3. 書名 日本版General Social Surveys基礎集計表・コードブック JGSS-2017G | |

| | |
|--|-----------------|
| 1. 著者名 日本版総合的社会調査共同研究拠点 大阪商業大学JGSS研究センター | 4. 発行年 2019年 |
| 2. 出版社 日本版総合的社会調査共同研究拠点 大阪商業大学JGSS研究センター | 5. 総ページ数 306 |
| 3. 書名 日本版General Social Surveys基礎集計表・コードブック JGSS-2017 | |

| | |
|--|-----------------|
| 1. 著者名 日本版総合的社会調査共同研究拠点 大阪商業大学JGSS研究センター | 4. 発行年 2019年 |
| 2. 出版社 日本版総合的社会調査共同研究拠点 大阪商業大学JGSS研究センター | 5. 総ページ数 325 |
| 3. 書名 East Asian Social Survey EASS 2014/2015 Work Life Module Codebook | |

| | |
|---|---------------------------|
| 1. 著者名 IWAI, Noriko in TSAI, Ming-Chang, CHEN, Wan-chi (Eds.) | 4. 発行年 2017年 |
| 2. 出版社 Springer | 5. 総ページ数 213 (107-127) |
| 3. 書名 Family, Work and Wellbeing in Asia, Chapter 6, Division of Housework in Japan, South Korea, China and Taiwan | |

| | |
|---|---------------------------|
| 1. 著者名 伊達平和 in 平井晶子・床谷文雄・山田昌弘(編) | 4. 発行年 2017年 |
| 2. 出版社 日本経済評論社 | 5. 総ページ数 368 (121-140) |
| 3. 書名 出会いと結婚(家族研究の最前線2), 第4章, アジア七地域における『出会いと結婚』の諸相, | |

| | |
|--|-----------------|
| 1. 著者名 宍戸邦章 | 4. 発行年 2018年 |
| 2. 出版社 晃洋書房 | 5. 総ページ数 259 |
| 3. 書名 高齢期のクオリティ・オブ・ライフ 幸福感・社会的ネットワーク・市民活動 | |

| | |
|--|-----------------|
| 1. 著者名 日本版総合的社会調査共同研究拠点 大阪商業大学JGSS研究センター・京都大学大学院教育学研究科教育社会学講座 | 4. 発行年 2017年 |
| 2. 出版社 日本版総合的社会調査共同研究拠点 大阪商業大学JGSS研究センター | 5. 総ページ数 290 |
| 3. 書名 日本版 General Social Surveys 基礎集計表・コードブック JGSS-2016 | |

| | |
|--|-----------------|
| 1. 著者名 日本版総合的社会調査共同研究拠点 大阪商業大学JGSS研究センター・京都大学大学院教育学研究科教育社会学講座 | 4. 発行年 2017年 |
| 2. 出版社 日本版総合的社会調査共同研究拠点 大阪商業大学JGSS研究センター | 5. 総ページ数 200 |
| 3. 書名 日本版総合的社会調査共同研究拠点 研究論文集 [17] | |

〔産業財産権〕

〔その他〕

| |
|---|
| <p>日本版総合的社会調査共同研究拠点 大阪商業大学JGSS研究センター 研究論文集 http://jgss.daishodai.ac.jp/research/res_top.html 日本版総合的社会調査共同研究拠点 大阪商業大学JGSS研究センター 国際シンポジウム・国際会議 http://jgss.daishodai.ac.jp/research/res_symposium.html 日本版総合的社会調査共同研究拠点 大阪商業大学JGSS研究センター 研究発表会 http://jgss.daishodai.ac.jp/research/res_colloquium.html 日本版総合的社会調査共同研究拠点 大阪商業大学JGSS研究センター 共同利用実績 http://jgss.daishodai.ac.jp/research/res_achievement.html 日本版総合的社会調査共同研究拠点 大阪商業大学JGSS研究センター コードブック http://jgss.daishodai.ac.jp/research/res_codebook.html 日本版総合的社会調査共同研究拠点 大阪商業大学JGSS研究センター 時事設問の調査結果速報 http://jgss.daishodai.ac.jp/research/res_result.html</p> |
|---|

6. 研究組織

| | 氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号) | 所属研究機関・部局・職 (機関番号) | 備考 |
|-------|---|--|----|
| 研究分担者 | 穴戸 邦章 (Shishido Kuniaki) (10460784) | 大阪商業大学・公共学部・教授 (34410) | |
| 研究分担者 | 佐々木 尚之 (Sasaki Takayuki) (30534953) | 大阪商業大学・公共学部・准教授 (34410) | |
| 研究分担者 | 谷岡 一郎 (Tanioka Ichiro) (90227207) | 大阪商業大学・公共学部・教授 (34410) | |
| 研究分担者 | 杉田 陽出 (Sugita Hizuru) (60268290) | 大阪商業大学・経済学部・准教授 (34410) | |
| 研究分担者 | 仁田 道夫 (Nitta Michio) (70114600) | 東京大学・社会科学研究所・名誉教授 (12601) | |
| 研究分担者 | 岩井 八郎 (Iwai Hachiro) (80184852) | 京都大学・教育学研究科・教授 (14301) | |
| 研究分担者 | 阿部 彩 (Abe Aya) (60415817) | 首都大学東京・人文科学研究科・教授 (22604) | |
| 研究分担者 | 釜野 さおり (Kamano Saori) (20270415) | 国立社会保障・人口問題研究所・人口動向研究部・第2室長 (82628) | |

6. 研究組織（つづき）

| | 氏名 (研究者番号) | 所属研究機関・部局・職 (機関番号) | 備考 |
|-------|---|--|----|
| 研究分担者 | 伊達 平和 (Date Heiwa) (70772812) | 滋賀大学・データサイエンス学部・講師 (14201) | |
| 研究分担者 | 溝口 佑爾 (Mizoguchi Yuji) (80780569) | 関西大学・社会学部・准教授 (34416) | |
| 研究分担者 | 孟 哲男 (Mo Tetsuo) (60761690) | 大阪商業大学・JGSS研究センター・研究員 (34410) | |
| 研究分担者 | 竹本 圭佑 (Takemoto Keisuke) (60824901) | 大阪商業大学・JGSS研究センター・研究員 (34410) | |
| 研究分担者 | 吉野 智美 (Yoshino Satomi) (00806599) | 大阪商業大学・JGSS研究センター・研究員・ポストドクター (34410) | |
| 研究分担者 | 金 政芸 (Kim Jeongwoon) (20840333) | 大阪商業大学・JGSS研究センター・研究員・ポストドクター (34410) | |
| 研究分担者 | 滕 媛媛 (Teng Yuanyuan) (40793716) | 大阪商業大学・JGSS研究センター・研究員・ポストドクター (34410) | |
| 研究分担者 | 林 萍萍 (Lin Pingping) (80825852) | 大阪商業大学・JGSS研究センター・研究員 (34410) | |

6. 研究組織（つづき）

| | 氏名 (研究者番号) | 所属研究機関・部局・職 (機関番号) | 備考 |
|-------|------------------------------|--|----|
| 研究協力者 | 漢字なし 漢字なし (Smith Tom) | シカゴ大学・National Opinion Research Center・Director | |
| 研究協力者 | 傅 仰止 (Fu Yang-chih) | 中央研究院・社会学研究所・特聘研究員 | |
| 研究協力者 | 王 衛東 (Wang Weidong) | 中国人民大学・中国調査与数据中心・副所長 | |
| 研究協力者 | 金 知範 (Kim Jibum) | 成均館大学校・Survey Research Center・Director | |
| 研究協力者 | 金 碩鎬 (Kim Seokho) | ソウル大学校・Institute for Social Development and Policy Research・Director | |
| 研究協力者 | 呉 齊殷 (Wu Chyi-In) | 中央研究院・社会学研究所・副所長 | |